

San-iku 通信



社会福祉法人
賛育会

ご自由にお持ちください。

2014 WINTER

Vol. **04**

社会福祉法人 賛育会 広報誌
さんいく通信

New!
特集

賛育会病院

感染予防～咳エチケット～
健康に美しく～薬膳スープレシピ
賛育会ヒストリー ～第一章 最終話



多職種ミーティング



新生児室



くっくの会 (退院児同窓会)



地域のお祭りに職員も参加

特集

賛育会病院

もうすぐ100周年。伝統を活かしながらも進化を遂げていく病院へ

賛育会の伝統を大切に、心の通った医療と看護を実施しています。

東京の下町として知られる墨田の地で「賛育会」は、1918年3月に創立されました。その目的は、婦人と小児の保護・保健並びに医療活動を行うことでした。更に地域のニーズに応えるために医療活動の領域を広げ、誕生から看取りまでライフスタイルに関わる医療を提供する総合病院として、今日至っています。現在では、「周産期・小児医療」「成人期・老年期地域医療」「終末期医療」の3つを柱とし、地域密着の医療を行っています。

周産期ではNICU6床を有する地域周産期母子医療センターとして年間1,323件(2013年度実績)の分娩を受け入れています。小児医療は地域急性期医療や、在宅において患児の看護をされているご家族の負担を軽減できるレスパイト入院を受け入れ、24時間を通して受診相談や救急患者に対応しています。成人期・老年期では東京都指定二次救急を、またこれからの高齢化社会を見据え、人々が住み慣れた地域でその人らしい生活をサポート

するために、近隣の医療機関・介護施設との連携を密に取っております。終末期医療では墨田区唯一の緩和ケア単科病棟(20床)を有し、終末期を迎える患者さまにとって「住み慣れた下町のホスピス」となるよう目指しています。病院にとって最も大切なことは、安全で質の高い医療の提供、受診される方々にとって優しい、心の通った医療・看護を実施することです。

患者さまやご家族の方々に、「ああ、やっぱり賛育会病院に来てよかった」と言っていたいただけるような病院でありたいと思っております。

地域の行事等にも参加し、病院スタッフも御神輿を担がせて頂いたり、積極的に地域の皆さまと関わっていきたいと思います。今後は病院の建て替えも予定しています。今話題の東京スカイツリーが開業した墨田区と同様に、伝統を活かしながらも、進化を遂げていく病院となるよう日々努めています。

下町情緒と未来を感じる街「錦糸町(墨田区)」



錦糸町の由来は、錦糸町駅の北側にあった堀が、錦糸堀と呼ばれたことから言われています。なぜそう呼ばれたかは不明ですが、「岸堀がなまった」や「朝日夕日にきらめくお堀の水面が金糸のようだから」など諸説があります。江戸末期から明治にかけて活躍した歌舞伎作家、河竹黙阿弥の作に「孝女お竹」があり

ます。この話の舞台の一つが「錦糸堀」であり、「錦糸堀」を記録する唯一の文献だそうです。錦糸(町)の由来となった「錦糸堀」は、江戸時代の怪談として有名な「おいてけぼり」としても知られています。現在の錦糸町は、東京スカイツリーも程近く、東京都東部エリア随一のビジネス街・繁華街としても有名です。

■インフォメーション 賛育会病院

TEL:03-3622-9191
東京都墨田区太平3-20-2

■Webサイト
<http://www.san-ikukai.or.jp/sumida/hospital/>

知っ得! ケア

感染予防～咳エチケット～

咳が出るときの正しい対処方法

「咳エチケット」とは、厚生労働省がインフルエンザの感染拡大を防ぐため、呼びかけ始めたものです。新型インフルエンザ対策の中で日本でも取り入れられるようになりました。咳をする時、手で口を覆うのは間違いです。咳の症状がある場合、最もお勧めなのはマスクの装着です。マスクが無い場合はウイルスを飛散させないよう、手で口元を覆うようにとアドバイスされています。しかしこのアドバイスは医学的に誤りで、咳の瞬間のウイルス飛散は抑えられますが、殆どのウイルスが手に付着するため、感染を広げてしまうことになるのです。例えば咳をした後で不特定多数の人が素手で触るドアノブ、エレベーターのボタン、パソコンや資料、電車の吊革などを触ると、物を介してウイルスが広がります。マスクがない場合は、ティッシュペーパーなどで口元を押さえるのが正解です。使用したティッシュペーパーはビニール袋などに入れて、袋の口を結んでから捨てましょう。また、咳をする時に手で口元を覆うことで、手に付着している他のウイルスを吸い込んでしまうリスクもあります。感染拡大と予防の二重の意味で、手で口元を覆うのはお勧めできないのです。くしゃみや咳が出ている間はマスクを着用し、使用後は放置せずにゴミ箱に捨てましょう。マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、顎の部分が出ていたりしていると効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。



癒しの薬膳豆乳スープ

寒い冬は薬膳のスープでほっ!とあたたかなひとときを。

■材料(2人分)

玉ねぎ(2cm角).....20g	A	バター.....小さじ1/2杯
白菜(2cm角).....30g		小麦粉.....4g
ほうれん草.....1株		豆乳.....100cc
ほたて缶.....10g		コンソメ.....2g
水.....200cc		塩.....1g
クコの実.....2g		胡椒.....少々

■作り方

- 1.クコの実を水で20分ふやかす。
- 2.ほうれん草は下茹でし、玉ねぎ、白菜は2cm位に切る。
- 3.鍋にバターを入れ火にかけて、野菜(A)と小麦粉を加え炒める。
- 4.3にほたて缶、水を加え、野菜が軟らかくなるまで火を通す。
- 5.豆乳、コンソメを加え、塩、胡椒で味を調べて、クコの実を添えて完成!

★素材の効能

豆乳:貧血、低血圧、肺の機能を高めて潤す、鼻詰まり、口の渇き 玉ねぎ:滋養強壮、気・血の滞りの解消、食欲不振、血栓を防ぐ ほたて:滋養強壮、老化防止、めまい、のぼせ、視力回復、頻尿 白菜:発熱した時の喉の乾燥や咳・痰、便秘、二日酔いの防止・改善 ほうれん草:貧血、体を潤す、乾燥肌、目の充血、めまい、喉の渇き クコの実:疲れ目、滋養強壮、老化防止

(レシピ提供: 賛育会病院 栄養科主任 山本 由紀)

賛育会ヒストリー

賛育会の歴史物語

第一章 賛育会の歴史

第四話

多事多難を乗り越え、社会福祉法人に。
隣人愛の心で、これからも使命を果たしていきます。

1945年8月15日、日本の無条件降伏で戦争は終わりました。戦災をうけ解散した賛育会は、苦難の戦後生活の中で、いまだ復興の目途が立っていませんでした。そんな中、戦地から生還した丹羽昇(常務理事)と竹岡秀策(石島病院副院長)が石島病院跡で再会。1946年1月28日、強い情熱を胸に二人は賛育会復興へと動き出します。6月10日、賛育会病院の焼けビルの一部で診療を再開。竹岡が全科を一人で担当、一つだけの診療室は窓ガラスもなく、冬はセロハン紙を貼って過ごしたそうです。一方、丹羽は中央社会福祉協議会設立に関与するなど、日本の社会福祉事業の枠組み構築に日夜奔走。彼の活動は賛育会に新しい視点を与え、後に医療社会事業部の開設へとつながっていきます。そして病院の修復が進む中、高松宮さまが2度ご視察に。さらに、1951年には天皇・皇后両陛下も病院をご視察。全職員の士気は高揚するも、まだま

だ財政困難のため職員給料は半額支給というありさまでした。しかし、1952年、賛育会は財団法人から社会福祉法人に組織を新たに変更。順調に事業は拡張されていきます。時は経ち1964年に特別養護老人ホーム清風園を東京町田に開設。70年には長野に、翌年には静岡に清風園を開設。将来の社会にあるべき医療と福祉と保健との総合機関として大きく動き出しました。その後オイルショックなど多難な時代を組織運営改革を幾度となく行い危機を乗り越え今日まで前進してきました。96年前に有志が始めた社会福祉運動であった賛育会は、時代のかたちに合わせて、常に地域の人々のニーズに応え、これからも使命を果たしていきます。(終)



1964年頃の特別養護老人ホーム清風園



平成27年4月より介護保険法が変わります。

介護保険制度は、来年4月の見直しに向けて準備が進められておりますが、今回は国の「**社会保障と税の一体改革**」の方針(社会保障制度を持続可能で全世代型の制度に移行)により変更が予定されています。具体的には、「住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実」「低所得者の保険料軽減を拡充。保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直す。」という基本方針の下記の改正案が示されております。

- ①認知症の早期発見、早期治療の為に施策等の充実
- ②全国一律の予防給付(要支援の方の訪問介護・通所介護利用)を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、多様化する。
- ③特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定(既入所者は除く)
- ④低所得者の保険料の軽減割合を拡大
- ⑤一定以上の所得のある利用者の自己負担を引上げ
- ⑥低所得の施設利用者の食費・居住費を補填する「補足給付」の要件に資産などを追加

負担の見直しも含んだ改正案ですが、現在、厚生労働省の審議会で詳細が検討されており来年の1月には概要が示される予定です。

★クリスマス献金のお願い★

賛育会がキリスト教の「隣人愛」に突き動かされ、1918年に創立されて以来、地域の方々が安心してお産と子育てが出来るよう医療に取り組んで96年、高齢者の生活を支える福祉に取り組んで50年が経ちます。近年は、時代のニーズに応え、2011年に保育園(江東区)、2012年に都市型ケアハウス(墨田区)を開設し、現在は、町田市に医療・介護連携型サービス付き高齢者向け住宅と江東区に2つ目の認可保育園の開設を進めています。多様化しさまざまな支えが必要とされる今、賛育会は知恵を出し合い、力を合わせ、働いていきたいと願っています。ぜひ賛育会の働きのために献金をお寄せください。クリスマスを迎えるこの時、皆さまの上に豊かな恵みがありますように。

■クリスマス献金お振込口座

郵便局口座:00190-7-418054 賛育会後援会
*郵送物に同封のお振込用紙からもご寄付いただけます。

■問い合わせ: 賛育会後援会事務局 03-3622-7614

San-iku通信 Vol.04 2014年 冬号
編集発行人:西原 良信
発行所:社会福祉法人 賛育会
東京都墨田区太平3-17-8 電話:03-3622-7614
印刷:(有)エースプリント

賛育会ホームページ <http://www.san-ikukai.or.jp/>



東海清風園(静岡県御前崎市) 毎年恒例! 賛育会フェスタ開催!!

11月9日に、東海清風園の恒例行事である、賛育会フェスタが開催されました。今年で7回目の開催となり、やや小雨が降る天候



ではありましたが、地域の皆様をはじめ、ご利用者、ご家族、ボランティアの方など、大勢の方が来場され、大変盛り上がりました。各ブースでは様々な催し物、イベント、バザーなどが行われたり、焼きそばや、自然薯を使った芋汁などの模擬店があったりと、多くの方の笑顔がたくさん見られる1日となりました。

Hello! ホスピタル 賛育会病院

Vol.04

くっくの会

～新生児集中治療室 退院児の同窓会～

その足で大地を踏みしめる!



10月12日、当院において「第15回くっくの会」を開催しました。「くっくの会」とは、NICU(新生児集中治療室)を退院された赤ちゃんの同窓会で、1998年から開催されてきました。2012年度から2013年度にかけて生まれた赤ちゃん

約20名と赤ちゃんの兄弟や家族等の約50名、総勢約70名を、小児科医師、NICU病棟スタッフ、管理栄養士、ボランティア等の病院スタッフがお迎えました。

リズム体操が始まると、「何をやるのだろう?」と見つめてくる子や、体を動かしている子で会場の雰囲気が高まりました。記念の足形作成では、足の裏が真っ赤になって大賑わい。NICUを退院した時の小さい足が、いつの間にかしっかり大きくなって、成長を実感させてくれました。「くっく」は靴を意味し、生まれた直後の小さな足がすくすくと成長し、しっかりと大地を踏みしめて欲しいという願いが込められています。今回は事前にアンケートを取り、ご家族の方々が不安や疑問に思うことを、医師や管理栄養士が回答、一人一人の悩みをみんなで共有する場ができました。

ご家族の方々からは、次回も楽しみにしていると、嬉しいお言葉を頂きました。来年もこの会を通して、子ども達の健やかな成長を願い、また温かく見守っていききたいと思います。